

みんなで語ろう！未来庁舎
クリエイティブラボ Season 2

未来の庁舎 研究室

NEWS LETTER

10月19日(日)、へきしんギャラクシープラザ(文化センター)で、未来庁舎クリエイティブラボ(創造的な対話の場)「未来の庁舎研究室」の集大成となる研究発表会を開催しました。

この日は、市内の高校生や市民、職員などの研究室メンバー20名に、安城市庁舎整備審議会太幡会長、安城市長、安城市副市長、傍聴者をあわせて35名の参加がありました。

前半は、5つのグループに分かれて進めてきた「未来×庁舎～自主研究プロジェクト」の発表会。各発表について、ふせんを使って「評価」や「改善へのアドバイス」を送り合いました。

休憩を挟んで後半は、各グループでこれまでの活動をふりかえり、「庁舎整備に活かしたいこと」について考え、発表しました。

「未来×庁舎～自主研究プロジェクト」発表会

1. オープニングあいさつ (三星市長より)

庁舎は、市民の財産。来庁者にとって快適で、職員にとって生産性の上がる空間であるとともに、災害時でも業務可能な強靱性を備えるほか、人口減少など社会変容に対応する柔軟性を持つものでなければなりません。それだけでなく、市民に愛され親しまれる庁舎を目指すべきだと思っています。



2. 研究発表会/プレゼンテーション

グループ1 プロジェクト名: 「色々な人が気軽に来れる庁舎」

市役所は、手続きや苦情、困り事の相談に行くといったカタチイメージ。このイメージを取っ払い、誰でも気軽に来られる庁舎にするために、「夢の国のような庁舎にしたい!」と考えました。

そこで、私たちはアンフォーレでインタビュー調査を行い、13名の方からお話を伺いました。

子ども連れのパパ・ママからの意見では、「子どもを預ける場所がほしい」、「子どもが遊べる場所がほしい」、「土日でも手続きできるようにしてほしい」という意見がありました。

子どもたちからは、「ごはん屋さん」「屋台」「図書館」「ゲームセンター」「遊べるところ」など…夢のある意見が多く出てきました。

若年層からは、「図書館」や「ホール」、「子どもを預けられる場所」、「駐車場が停めやすいといい」などの意見がありました。

シニア世代の方からは、「ゆっくり話せるような場所がほしい。カフェや喫茶店のような…」という意見がありました。

これらの意見を総括し、「楽しく過ごせる夢の国のような庁舎、皆さんが気軽に来られる場所」にしたいと考えました。

また、夢の国のスタッフが明るく楽しく働いてこそ、私たちも夢の国を楽しめる。建替えをきっかけに、「職員さんたちの働き方」も見直されるといいと思います。

質疑応答

Q: アンフォーレでの聞き取りはどのように行ったのか?

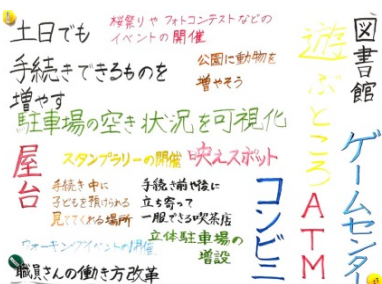
A: 一人一人声かけし、意見を聞きました。

太幡会長講評

- 庁舎における子どものスペースは3つあり、1つ目は「窓口カウンター近くのキッズコーナー」。2つ目は、市民が誰でも使えるオープンなスペースの周りにある「子どもが遊べる場所」で、子ども図書館を併設した庁舎や屋内公園・半屋外公園を設置している庁舎もあります。3つ目は子どもを預けられる「託児スペース」。この3つのレベルで考えることができるのではと思います。

三星市長講評

- 実際に市民の方にヒアリングをしていただき、それを未来の庁舎の姿に落とし込んでいくというプロセス自体に、すごく説得力がありました。市民も職員も笑顔になれる提案でした。



みなさんは映画「ALWAYS 三丁目の夕日」をご存知ですか。舞台は昭和33年。人が元気で明るく、いろんな人と密接に関わっている時代。私たちは、新庁舎に「南吉の路地裏」と名付けた多目的フリースペースを提案します。昭和の温かいつながりがあって、縁側で将棋をさしたり、水場でおしゃべりをしたり・・・「市民が自然に集って笑顔になれる場」がつかれるといいなと思います。

現在の庁舎では、用事があって行き、終わればすぐ帰るのがほとんどだと思いますが、新しい庁舎では「手続きの場」にプラスして「来たくない・話したくない」空間をつくり、「世代を超えた交流」を生みたい。親子、高齢者、学生、市職員が混じり合って自然に会話できれば、より安城が活性化していくのではないのでしょうか。

また、ここでは「安城らしい文化」を発信したい。新美南吉や安城七夕まつりなど、「まちの魅力を感じられる拠点」として「南吉の路地裏」が活用されるいいなと思います。

神奈川県に「春日台センターセンター」というところがあります。コインランドリーや美味しいコロッケ目当てに子どもも大人も集って一緒におしゃべりをしている。南吉の路地裏も、こういう「生活の延長にある交流を目指す場」にしたいと思います。

庁舎の一角を「まちの縁側」に。地元で採れた野菜を販売したり、美味しいものを食べたり飲んだりできたり…。暮らし、文化、交流が交差する新庁舎の空間、手続きだけの庁舎から笑顔と会話があふれるまちの居場所へと移行していくいいなと思います。

質疑応答

Q: 新庁舎とアンフォーレとの棲み分けは？

A: アンフォーレは人が集まることが目的とされています。新しい庁舎はもっと「文化色」を強くしたいです。例えば、新美南吉や七夕飾りが飾ってあって、色と温かみを感じる場所にしたいです。

太幡会長講評

- 事例で挙げられた「春日台センターセンター」は、建築界隈で非常に注目された施設。「公・共・私」が混ざり合うことで、新しい公共施設のあり方が見えてきた重要な事例だと思います。
- 「路地裏」は「外」であることも大事な点。立派な施設ができて、施設の中（屋内）でしかアクティビティが起きてないことが結構あります。「外」と「内」をうまくつなぐ縁側をどうつくるかが、重要なヒントになるんじゃないか、と思いました。

三星市長講評

- 「文化の交差点」、「まちをつなぐ拠点に」という視点は、今後庁舎整備を進める際、大事にしていきたいなと思いました。



みなさんは「誰もが使いやすく、気軽に訪れたい庁舎」とはどんなものだと思いますか？私たちは、市民・職員など関係なく「来庁者に優しい庁舎」であれば、愛される庁舎になると考えました。

そして「来庁者に優しい庁舎」にするには、「目的の場所に行きやすくする」、「待ち時間のストレスを緩和する」の2つの課題があると考えました。

実際、来庁者は何に困っているか。令和6年に実施された「安城市庁舎整備に関する市民アンケート調査」の結果では、「案内表示が分かりにくい」、「通路や待合スペースの広さが十分でない」が上位に挙げられています。

ハード面の先進事例として、大府市役所と千葉県四街道市役所では、市民の窓口が端に固められており、自分の行きたい場所が何階かさえ分かれば、端から順番に追っていくことで、目的の窓口に通着ける構造になっています。

ソフト面の事例は、同じく四街道市役所で採用されている「Turn NAVI」という番号案内システム。スマートフォンなどで混雑状況が分かり、番号が近づくとお知らせが届く。また兵庫県の伊丹市役所の「てらすガイド」というシステムは、壁や床に絵や文字を投影し、直観的でわかりやすい案内ができます。

以上から、来庁者に優しい庁舎にするためには、①待合スペースの確保、②窓口スペースを広く、③目的地までの導線が明確、④待ち時間がわかる、の4つが大切だと考えます。

太幡会長講評

- 「気軽に」という言葉は、すごく普通の言葉だけど深いテーマ。実は、世界の公共施設で今最も注目を集めているものの1つが「図書館」です。図書館を新しくつくことで市民社会をつくり出している事例が多く出てきています。おそらく「誰でも居ていい場所」であることが、図書館が成功する理由で、アンフォーレもそういう側面があるんじゃないかと思います。「居ていい場所」としての庁舎ができると、もしかすると気軽に誰でもふらっと、つい行ってしまうという場所になるんじゃないかと思います。

三星市長講評

- 先進事例なども交えて、非常にわかりやすく、来庁者のニーズを的確に捉えた具体的な提案をいただきました。



さくら学園の生徒＝えこちゃんは、数学のテストが間近に迫っています。「友達と教え合って勉強したいのにカフェは学生だけで座れない！市役所の中にカフェがあれば勉強できるのに・・・」。

実際に高校で全校生徒 461 名にアンケートを実施した結果、約 8 割が「市役所内にカフェがほしい」と回答しました。

翌日、えこちゃんは市役所に向かいました。「市役所内にカフェがあったらいいなと思うんですが、どう思いますか？」と職員さんに聞くと、「そう思う職員も多いんですが、クリアすべき課題も多く、具体的には進んでいません。このアイデアを市民に広めたら、実現に向けて進んでいくかもしれませんね。」とされました。

実際に職員にアンケートを実施したところ、170 名中 110 名が「市役所内にカフェがほしい」と回答しました。

えこちゃんは、有識者の知見を得るために、市民会議に参加しました。「市役所内に居心地の良いカフェがあれば、憩いの場、多くの交流を生む場になります。」と言うと、賛同の声が上がった中、質問が出ました。「市役所近くのカフェと役割がかぶらないですか？」。そこでえこちゃんが「お金を使わなくてもいいカフェはどうでしょうか？学生の皆さんは喜んで利用するはずですよ！」と言うと、また質問がありました。「スペースに限りがある中で可能ですか？」。

えこちゃんは悩んで市役所で相談しました。「現在、市役所の食堂は、昼以外は打合せスペースとして使っているんで、それと同じように使えるかも？食堂とカフェを併設し、土日は食堂を無料開放。学生に勉強など自由に使ってもらいたいね。」えこちゃんは話を聞きながら情景を思い浮かべました。「ここなら勉強頑張れる！」。



質疑応答

Q:無料のカフェの人件費などはどうするのか？

A:カフェは、民間事業者さんに運営していただき、食堂部分をオープンスペースにすると良いと考えています。

Q:アンケート調査は、どのように実施したのか？

A:さくら学園の全校生徒には書面で配布し、即日回収。高校生が集計しました。市職員には電子回答をしてもらいました。

太幡会長講評

●「ティーンズの居場所」をうまくつくった公共施設は、いい施設になっています。テーマの設定が素晴らしいと思いました。民間のカフェの営業範囲を狭くして、買ったものを飲食できる「コモンスペース」があると、実は営業する方にもプラス。また、カフェは「見守り」の役割もあります。「見守りと自由のバランス」をどうデザインしていけるかがポイントになりそうです。

三星市長講評

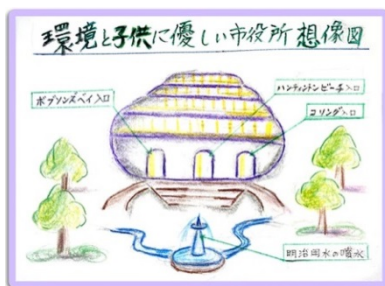
●本当に素敵な発表でした。民間施設でも、オフィスとカフェの境目がないような所が増えています。市役所の庁舎でもアリだな、まさに「親しまれる庁舎」になるのではと思いました。

まず、結論は「保護者の皆さんが来やすい庁舎をつくってください！」です。実態を調査するために、用紙とQRコードを使ったアンケートと3日間の視察をしました。

アンケートでは5つの質問をしました。「子どもが遊べるスペースがあった方がいいか？」という質問については、82%の人が「はい」と回答。「子どもを預けられる場所があれば利用しますか？」という質問に対しては85%の人が「はい」と回答しました。また自由記述では、「子連れ専用駐車場がほしい」といった駐車場に対する要望や、「魚がいたらうれしい」といった癒しの要素を求める声などもありました。また視察では、現在の市役所に「どんな人が」「どんな方法で」来庁していたか、などを観察しました。

これらの調査から、子どもが遊べるスペースや、子どもを預けられる場所、安城市の特産品や自然とふれあえる場所をつくれるといい。また、子連れ専用駐車場やベビーカーの貸し出しなどもできるといいなと思います。

これは「環境と子どもにやさしい市役所想像図」です。イチジクのような形



で、「空飛ぶ市役所」みたいになりました。気候変動が進む中、防災拠点となる庁舎で、インフラは水素発電や太陽光を使用。正面には明治用水の噴水を設け、夏は小さな子どもたちが水遊びできるようになっています。



太幡会長講評

●明治用水は安城の特徴的な文化遺産であり土木遺産。それを使うのはおもしろいなと思いました。建築的な観点でみると、冷たい水を使って冷房利用できるし、植栽に水をまくことで蒸散して涼しく、水遊び場への活用もできる。実際に導入できたら、とてもオリジナリティの高い庁舎になっていくと思いました。

三星市長講評

●実はアンフォーレをつくる時も、明治用水の流れを再現できないか、という議論がありました。庁舎を建てる場所が明治用水の近くになれば、より良い提案になると思いました。

3. 講評

(発表への講評は、各チームの紹介部分に記載しました)



安城市庁舎整備審議会
太幡会長

私自身の研究を思い出すところもあり、とても刺激的な発表でした。
審議会での議論も大事ですが、こうした皆さんがクリエイティブに話し合える場も必要で、楽しいなと思いました。



三星市長

大きく分けて「来られた方が快適に過ごせる庁舎」と「行きたくなる庁舎」の2点の視点がありました。それらの庁舎は市民に愛され親しまれる庁舎になると思います。
みなさんは今まさにワクワク感を持っておられる。私たち職員も、ワクワク感を忘れずに、これからやっていきたいと思いました。

4. グループワーク「ふりかえり～庁舎整備に活かしたいこと」



各チームで「評価・改善カード」を見ながら発表をふりかえったあと、「庁舎整備の基本構想（案）に活かしたいこと」について「ハード（建築・設備）」と「ソフト（サービス、仕組み、人）」面からアイデアを出し合い、グループで1つの「未来キーワード（未来の庁舎への提言）」にまとめて発表しました。

子どもと環境にやさしい庁舎／



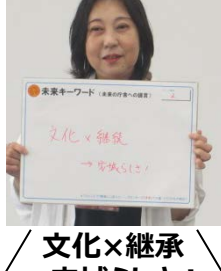
来庁者に優しいワクワクする庁舎／



庁舎にカフェ＝親しまれる庁舎！／



来庁の“きっかけ”を作ろう！！



文化×継承
→ 安城らしさ！

5. チェックアウト「気づきと約束」～クロージング

各自の「**Awareness**（今日の気づき、学び、感じたこと）」と「**Commitment**（私の約束）」を共有しました。

- ◆ 今まで庁舎について考えたことがなかったけれど、色々な方の意見を聞いて、若い僕らにも若いなりに何かアクションを起こすのも必要かなと感じ、自分事として考えることができました。
- ◆ 自分はいかに考えすぎてしまいがちですが、みなさんの発表を聞いて、楽しみながらいろいろな想像を膨らませてみるのが大切だと思いました。ワクワクしながら考えるからこそ見えてくるものもあると思います。
- ◆ 独創的で刺激的なワークショップでした。自分では出てこない意見があり、勉強になりました。
- ◆ 目の前の状態だけを見るのではなく長期的、根本的に考えることの重要性を学びました。



(株)国際開発コンサルタンツ
伊藤さん

今日、みなさんに感想で言っていた「ワクワク感があった」「クリエイティブな議論ができた」のは、まさにみなさんのおかげです。私たちもワクワク感が感じ取れる基本構想にしなければ！と思いました。



安城市庁舎整備審議会
太幡会長

「未来の庁舎」を考えた結果、「市民社会」や「市民生活」のあり方について、みなさんそれぞれが感じている課題のようなものを反映させていたのではないかと思います。私の役割として、この会で出された「課題」や「思い」を審議会にフィードバックしていきたいと思います！

ひとことアンケートより 正直大変だと思っていましたが、非常に有意義でした／自分では思いつかないプレゼン方法がたくさんあり、かなり勉強になった／各グループの発表を傍聴し、いろいろな視点から庁舎に必要なことを検討できました。参考になる意見が多く、勉強になりました。どのグループの発表もよく考えられており大変素晴らしいかったです／みんながワクワクして考えたことが、活かされたら良いな ほか

発行・問合せ

安城市 資産経営課 庁舎整備室
TEL : 0566-71-2270 (直通)
0566-76-1111 (代表)
※8:30～17:15 (土日祝日を除く)